

大谷スカウト通信

2014 秋



大谷スカウト連合協議会

2013年 事業報告

7月1日	委員会（総会）
10月6日	指導要員チーム会議
3月1-2日	第24回大谷スカウトリーダー研修会
8月4日	第16回日本ジャンボリー「大谷スカウトのつどい」
3月26-30日	第55回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	7月1日・7月2日・10月7日・12月16日・5月19日

第55回 大谷スカウト名誉奉仕訓練

隊長 品田千絵保（東京教区）

3月26日から30日まで、真宗本廟・同朋会館において「第55回大谷スカウト名誉奉仕訓練」（北秀継団委員長・品田千絵保隊長）が開催され、今回は、ボーイスカウト男子22名、女子7名の計29名が全国から集まり、4泊5日の生活を共にしました。スカウトたちは忙しいスケジュールの中、色々な体験をしました。

講義 仏教の教え、真宗の教え、難しいことばかり？頭がだんだん机に近づく姿も…。

特別講義 真城義磨先生（元大谷中・高等学校長）を講師にお迎えしました。三帰依に関する事、お釈迦様の悟った「真理」「縁起」の事、「本願」の話など、様々な角度から「いのち」と「人間」について考えるお話を聞きました。そして「今すぐわかる事が大事なのではない」「いづれわかる」という言葉を頂きました。心に語りかける講義でした。

フォーラム 真城先生の講義を受け、班ごとに意見を出し合い大Sフォーラムで発表しました。フォーラム初体験のスカウトも頑張って質問をしました。

プロジェクトハイキング 毎回親鸞聖人の足跡を訪ねるハイキングをしていますが、今回は比叡山へと出かけました。企画書、計画書、報告書も学びました。比叡の山で自分たちと同じ年頃の親鸞聖人は、何を思っていたのか感じ取ってもらえたでしょうか…？



阿弥陀堂御修復現場見学（27日素屋根）

大嘗火 室内営火でのスタンツは、この名訓で学んだこと「四門出遊」「成道」「山伏弁円」「キサー・ゴータミー」「出家」を題材としてそれぞれの班が演じることで講義の理解度も深まりました。

その他にも、帰敬式を受けたスカウトがいました。清掃奉仕では、阿弥陀堂の瓦を洗いました。名訓はスカウトたちが信仰への第一歩を歩みだすための背中を押す場です。そして、私たちスタッフも共に学ぶ場です。年齢を超えてスカウティングと信仰を考えていくことが出来ること。それがこの名誉奉仕訓練が55回という半世紀以上の回を重ねて来た理由であると思います。（品田）

第24回 大谷スカウトリーダー研修会

岡崎第8団カブ隊 DL 武野 祐丸（岡崎教区）



3月1日～2日京都教務所にて、「第24回大谷スカウトリーダー研修会」が開催され、全国各地から大谷スカウト指導者36名が参加しました。

今回のテーマは「大谷スカウト営火研究」ということで詳細を見ると、「営火のエールマスターが出来るようになる夢のような研修会」とあり、とても魅力的な案内に、すぐに応募しました。

研修会は営火の意義・ワークショップから実習ですが、内容は満載でワクワク・ドキドキでした。BS活動においてはキャンプファイヤーではなく、あえて営火と呼ぶ。その意味から始まって、営火の意義とそれに携わる人たちの役割と分担、何よりも点火された火をチームワークで静から動へ、そして感動に繋げるためにはどうするかを今回の研修で得ることができました。

さて、具体的には営火長・エールマスター・ファイヤーキーパー・準備係とスカウト活動で最も重要な後始末係の役割・営火プログラムの作り方を学び、特にプログラムの構成要素4S (Song, Stunts, Stories, Showmanship) を実技と合わせて学びました。

とにかく点火に懲りすぎることがあったり、また、ソングがいつも同じであったり、クイズを出し物にして一部しか盛り上がらなかったりと、言われてみればどれも思い当たりのあることばかりでした。どうしたらみんなでへとへとになるまで楽しむことができるかを、しっかりと学びました。

スカウト活動一年の総仕上げである隊キャンプ最後の夜の営火はスカウトにとって最も思い出に残るものにしなければならない。そのためにリーダー自ら精進しなければなりません。思えば、私もボーイ隊に入隊し、強烈な印象に残っているのは、営火のなんともいえない幻想的な火と汗だくになって歌い踊ったことそして、夜話をしている格好いい隊長の姿でした。

今回の研修では具体的なツールとして多くのソングや踊りも学ぶことができました。「スイカの名産地」はなかなか良いですね。全国から集まった仲間から出された名産に入れ替えて歌いました。「ホールディアクック」は最後がどうなるのかずっと気になっていました。「The big carabao」はローン・レンジャーを思い出して力が入ってしまいました。

まだまだありましたが、これを機会に営火を通して子どもたちと思い出をつくり、へとへとになるまで楽しみたいと思います。今年の夏は、営火が楽しみです。

ゲームやソングは隊集会や組集会でもすぐに使えるものが沢山あり、すぐにでもエールマスターをやりたくなる研修会でした。

北海道教区大谷スカウトのつどい

期 日 2015年7月18日(土)～20日(月)

発団 60周年記念行事として、スカウト・指導者・団委員総勢 38名で北海道キャンプを実施しました。

7月31日往路は名古屋港から大型フェリーでの2泊2日の船旅、苫小牧到着後はそれぞれの隊が札幌市内と支笏湖へ移動し3泊4日の道内でのプログラムを行い8月5日帰路は千歳空港より中部国際空港へ飛行機で全員元気に5泊6日の日程を終えることができました。

今回、様々な乗り物に乗車・乗船しましたが、体験プログラムの一つとし、すべての旅程を公共交通機関利用とすることでスカウトの公德心を養うこともできました。

往路 船内プログラムでは、ロープワーク・手旗訓練・クラフト・茶道体験・星座観測等々、船酔いをする暇もなく時間を過ごすことができました。

特別に操舵室の見学もさせていただき、船長さんと船についてお話することができ、スカウト達にとっては大変良い経験になったと思います。

道内ではカブ隊は8月2、3日札幌別院御廟にある青少幼年研修センターを宿舎としてお借りし、札幌市内ハイキング、藻岩山登山、千歳での航空ショーの見学、千歳川の川下りなど北海道の自然や施設を満喫することができました。8月4日には札幌4団のスカウトハウスに泊めていただき、本堂での朝のお勤めもご一緒させていただきました。



8.1 フェリー操舵室の見学



8.1 船内で茶道の体験



8.2 フェリーにて

8月3日北海道教区の函館第3団が中心になって実施している保養プロジェクト「はばたけ福島キッズ」で、福島県の子どもたちが札幌市内を訪れていて、札幌第9団と半田第1団もみんな一緒になって教務所で楽しい合同交流会が行われました。



8.3 支笏湖の朝



8.5 B S千歳川のカヌー体験



8.5 C S千歳川ラフティング体験

今回の行事では、日頃はなかなか出来なかった朝のお勤めも事前訓練を含め皆様のおかげで毎朝行うことが出来ました、今後は更なる信仰奨励につながっていけば良いと思っております。

ボーイ隊は支笏湖畔でテント一泊し、樽前山登山、千歳川のカヌー体験、札幌市内ハイキングなど、彼らの計画したプログラムを展開しました。中でも支笏湖での星空は特に感激したようでした。

8月3日夕刻は全員北海道教務所青少年研修センターに集まり、札幌4団、9団関係者の皆さんにご準備して頂いた夕食を友団の皆さん・福島キッズの子どもたちと一緒に頂き、夜の交流会では大いに盛り上がる事が出来ました。

私たちの団は順正寺前住職の故・坂田正孝先達が半田の地に初めてボーイスカウト運動を起してから昨年で60周年になりました、記念行事の一環として北海道キャンプを企画し無事終えることが出来たのも、大谷スカウト友団のお力添えとご協力によるものと深く感謝してお礼申し上げます。

名古屋教区
愛知連盟 知多東地区 半田第1団
北海道キャンプ実行委員長 榊原 芳朗

3・4頁の写真は半田第1団の提供です。



第23回世界ジャンボリーに向けて

大谷スカウト連合協議会委員長 石神 明

平成 26 年 7 月 7 日に開催された、大谷スカウト連合協議会総会において、任期満了による役員改選で、委員長に再選の推挙をいただきました石神でございます。

日頃は、大谷スカウト育成に御尽瘁いただき、大谷スカウト活動には深いご理解と御協力を賜り衷心より厚く御礼を申し上げます。

本年 4 月から大谷派で、仏教各宗派 13 教団が加盟する「日本仏教スカウト協議会」JBSC

(Japan Buddhist Scout Conference) の事務局と理事長（任期二年）を担当する事になりました。この協議会では、過去に出版しました「仏教スカウトリーダーハンドブック」の増版に向け作業に入ったところです。また 11 月 15 日 16 日と 1 泊 2 日で開催する、第 21 回仏教ガールスカウト研修会及び第 9 回仏教スカウト指

導者研修会が、大谷スカウト指導要員チームにより準備が進められております。

また、来年山口県きらら浜で開催される、第 23 回世界スカウトジャンボリーでは仏教各宗派の調整事務、世界仏教スカウト協会との連絡調整等の業務遂行と、第 16 回日本ジャンボリーで実施したような、日本の仏教各宗派ブースに大谷派として出展参加する事になりました。まことに多岐にわたる準備、対応が要求されることであり皆様方にも御協力をお願い申し上げます。現在ブースについては大橋副委員長を主査として準備がすすめられておる事であります。

このように今年度は、世界ジャンボリーに向けての準備一色になるうかと思いますが、皆様のますますの御協力をお願い申し上げご挨拶いたします。



訃報

- | | | | | | |
|-------------------|----|--------|------|--------------|--------|
| ・ 2013 年 2 月 1 日 | 還浄 | 宮本 哲雄 | 93 歳 | BS 恵庭第 1 団 | 前教区委員長 |
| ・ 2013 年 3 月 28 日 | 還浄 | 川越 道生 | 84 歳 | BS 札幌第 4 団 | 教区副委員長 |
| ・ 2013 年 5 月 5 日 | 還浄 | 坂田 正孝 | 83 歳 | BS 半田第 1 団 | 先達 |
| ・ 2013 年 8 月 3 日 | 還浄 | 小谷 日出吉 | 70 歳 | BS 金沢第 2 団 | 育成会役員 |
| ・ 2013 年 8 月 11 日 | 還浄 | 土師 利雄 | 68 歳 | BS 北名古屋第 1 団 | 団委員 |
| ・ 2014 年 4 月 17 日 | 還浄 | 鈴木 了正 | 99 歳 | BS 安城第 3 団 | 協議会顧問 |

2013 年度 仏教章取得者



2013年7月1日～2014年6月31日

教 区	氏 名	団 名	教 区	氏 名	団 名
東 京	山口 卓巳	葛飾第2団	岡 崎	石川 遼太	みよし第2団
東 京	山田 功大	中野第8団	岡 崎	古澤 直也	豊田第39団
東 京	吉田 隆史	江東第5団	岡 崎	水野 佑規	岡崎第5団
東 京	小倉 知樹	中野第8団	岡 崎	川下 和樹	豊田第16団
東 京	藤本 哲平	北第5団	岡 崎	宮野 喜丞	岡崎第10団
東 京	丸山 拓也	台東第1団	岡 崎	山田 庸一	岡崎第3団
東 京	田邊 聖尚	中野第8団	名古屋	鈴木 棕介	津島第3団
東 京	甲斐龍之介	足立第8団	名古屋	西村 祐太	名古屋第67団
東 京	武田 康志	柏第1団	名古屋	浅井 俊平	名古屋第67団
東 京	島村未菜子	江戸川第5団	名古屋	川村 望	名古屋第109団
金 沢	末井 慧見	金沢第1団	京 都	田中 聖也	倉吉第3団
福 井	松田 拓郎	鯖江第2団	大 阪	巨津 善来	大阪第18団
岐 阜	桑原 大知	大垣第7団	大 阪	長田 哲史	大阪第18団
岐 阜	窪田 遥	大垣第7団	大 阪	岡本 陽花	大阪第11団
岐 阜	田中 雅衣	大垣第7団	大 阪	黒野 仁喜	大阪第65団
岐 阜	荻野 義隆	大垣第7団	山 陽	谷口 篤史	広島第13団
岐 阜	後藤 康人	大垣第7団			



2014年 事業計画

7月7日	委員会（総会）
7月27日	指導者要員チーム会議
10月19日	指導者要員チーム会議（JBSC 研修会事前会議）
2月28日-3月1日	第25回大谷スカウトリーダー研修会
3月26-30日	第56回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	7月7日・7月8日・10月20日・以降2回開催

第25回大谷スカウトリーダー研修会

- 開催趣旨
み仏に遇い得た喜びを、未来社会を築く子どもたちのために…。
- テーマ「未定」
- 期間
2015年2月28日（土）～3月1日（日）
- 会場：京都教務所
- 募集人数：40名
- 運営：指導要員チーム

第56回大谷スカウト名誉奉仕訓練

- 開催趣旨
親鸞聖人のみ教えに学び、ともに大谷スカウトとしての自覚と自信を深める。
- 期間
2015年3月26日（木）から30日（月）まで
- 会場：東本願寺同朋会館
- 講師：未定
- 募集人数：48名（BS 36名・GS 12名）
- 団委員長：未定

編集後記

99歳で浄土に還られた鈴木先生にはたくさんの思い出がある。1970年5月。谷大ローバーだった私は、六甲で開催された宗門の第3回特修所の本部奉仕に参加。朝の弱いローバーのテントに毎朝起床の声掛けをしていただいたのが本部要員として参加しておられた鈴木先生だ。毎朝パジャマ姿に茶色の革靴でサイト内をジョギングしておられた小太りな姿が目には焼き付いている。そして、その夏の隊プロで自転車による東海道五十三次完全走破に挑戦した折、安城の鈴木先生のご自坊を4人で訪ねて一泊させていただいた。朝起きると制服とベレー帽姿で山門前の横断歩道を渡る小学生に声を掛けながら交通整理をする先生の姿が記憶にある。翌1971年3月。私の教師修練の副道場長が小川玄諦、鈴木了正。宗務総長が三森言融師であった。BS指導講を修練に取り入れ宗門が青少年教化を何とかしようとしていた時代だったと思う。また、この事がスカウト活動をイデオロギーで語る宗門体質のきっかけになったと私は思っている。

この後、日本連盟の総コミッショナーに就くなど、日連に長くご奉仕され「鈴木は、日連宗になった。」と揶揄されたこともあった。これは、当時の宗門参務に「清規三事」のひとつ実践躬行(Activity First)を取り上げて、スカウト運動は自ら実行することを第一とする。といった説明をしたら「我が宗門には、そんな自力を第一とするスカウト活動なんかいらん。」と言われ、これをきっかけに大谷派の青少年教化から身を引いたと、尾張温泉で開催した第3回リーダー研修会（1992.2）の講演で鈴木先生自らがそうおっしゃられた。青少幼年教化は、つべこべ言う前に住職が立ち上がらなければ何も始まらないということだろう。（大橋）

●発行日：2014年11月1日 ●発行：大谷スカウト連合協議会 <http://homepage2.nifty.com/tanisco/> FAX075-351-9599

●事務局：〒600-8168 京都市下京区室町通り六条下ル八百屋町273 真宗大谷派青少年センター スカウト係 ☎075-354-3440